

6月10日（月）授業研究会

本校では今年度、すべての先生方が主体的に参加し、日々の授業実践に活かすことができる学びとなるよう、校内研修のあり方の見直しに取り組んでいます。今回の大研後の授業研究会では、授業参観時から Padlet を活用し、「探究型」校内研修として、「見通しと振り返り」、「対話」、「教師の役割、委ね方」、「主体性」の4つの問いの視点をもとに、以下の流れに沿って校内研修を行いました。（Padlet の記録については、次の URL、QR コードからご覧いただけます。<https://padlet.com/epuk14/6-10-q42l8i58b24m2jjd> ）



1. 概要

・研究内容を生徒ともに教師が実践する機会として、体験することで「自己調整」の学びのサイクルを理解する。

探究サイクル	内容	場	自己調整サイクル
課題の設定	各自の「問い」の設定。自身の関心から授業を参観する目的を見出す。	授業	見通し
情報の収集	授業を参観する中で、各自の「問い」の解決のために必要な情報を集める。（生徒の発言・メモ、教師の発問・板書などを根拠に）		実行
整理・分析	情報をもとに、「問い」の解決を図る。	授業研究会	実行+振り返り
まとめ・表現	自身の授業にいかすなら…という視点で授業改善までつなげる。		

2. 具体的な方法

- (1) 各自の「問い」をアンケートで事前に集約。
- (2) Padlet を用いて随時情報を収集し、記入。
- (3) 授業研究会において、共通の問いでグルーピング。
- (4) 本授業が自身の授業にどのようにいかされるのかまで話し合う。
→授業への批評を超えて自身の授業改善につなげる。

